

＜ツーリズム業界・リサーチ・レポート＞

情報提供用資料

2024 年 10 月 21 日

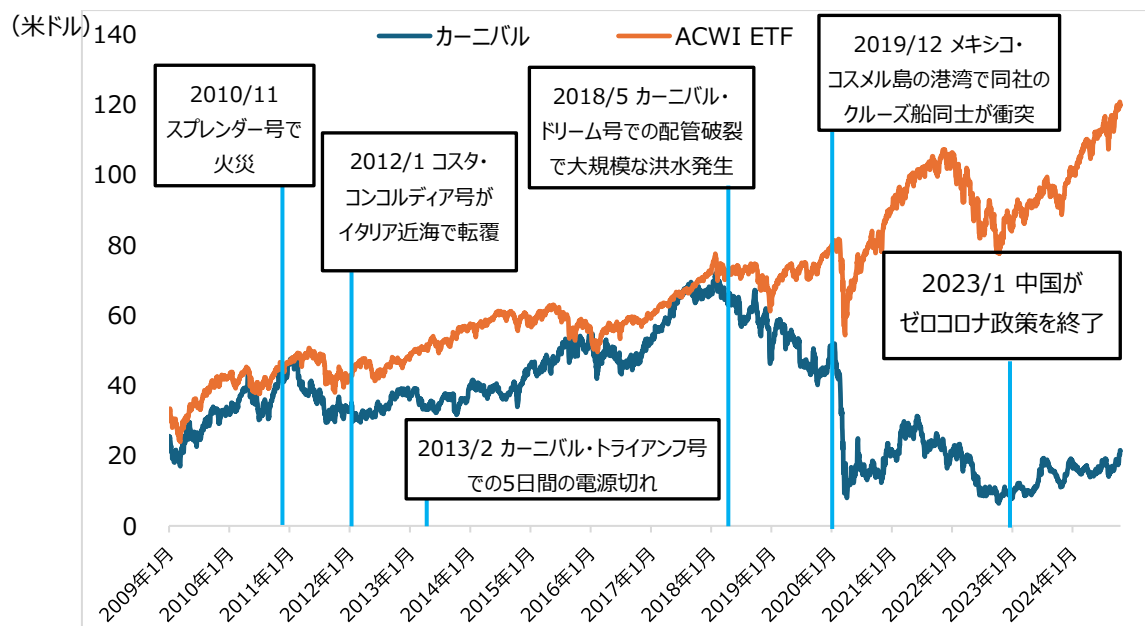
クルーズ船業界のパフォーマンスは、より高く、より遠くへ

昨今、クルーズ船業界が驚異的なレベルで回復していることを無視するのは難しい。新型コロナウイルス以前、特に2016年から2019年までを振り返ると、観光セクターの3%を占めるクルーズ業界は、すべてのサブセクターの中で最も急速に成長したサブセクターであった。特にカーニバル・コーポレーション(以下、カーニバル)の2019年度の売上高成長率は10%を超えていた。クルーズ船業界は3つのオペレーターが世界市場をほぼ支配しており、カーニバルが45%というシェアでトップを走り、ロイヤル・カリビアン・クルーズとノルウェー・クルーズラインがそれに続いている。

観光業は人間の本質の一部だと考えられる。というのは、他の国を訪れ、他の文化を体験するという旅行体験は、どんな物質的な利得とも比べものにならない価値のあるものだからである。この旅行体験を求める傾向は続くといえよう。

2021年までにワクチンの普及が進み、この業界は活気を取り戻し始めたが、どの地域で回復したのであろうか。それは特にカリブ海地域である。この地域は国境を越えた移動を早期に許可したことで、ロイヤル・カリビアンが最大の受益者となった。なぜなら、その地域が同社の重点地域であり、国境を越えた移動が比較的容易だったからである。これに加えて、ロイヤル・カリビアンは負債は低水準で管理しやすいものであった。世界中で事業を展開するカーニバルは、その時点では売上高の回復が鈍かった。地中海諸国、大西洋横断航路、さらにはアジア周辺では、国境をまたいだ移動が容易ではない状況だったからである。遅ればせながら、カーニバルの足元の売上高が2019年の水準を超えてきたのは喜ばしいことである。クルーズ旅行者の愛着心には驚くべきものがある。クルーズ旅行をする人々は、毎年のようにクルーズ旅行に出かけている。クルーズ旅行者は事実上のクルーズ旅行中毒といえるかもしれない。

カーニバル株式とiシェアーズ MSCI ACWI ETFの推移：2009年～2024年10月17日



出所：ブルームバーグのデータを元にキャピタル アセットマネジメントが作成

免責事項

当資料は、情報提供を目的として、キャピタルアセットマネジメント株式会社 (CAM) が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。



中国市場がコロナ防疫措置の解除に伴い再開した 2023 年に入って初めて、投資資金は出遅れの目立つ企業に集中的に投下されるようになった。カーニバルはその好例で、株価は 2022 年 10 月の 6.5 米ドルから 2023 年 7 月 7 日までに 19 米ドルへと上昇した。この急騰は、当初は負債水準について強く懸念していた投資家が、売上高の回復に注目し、明確で合理的な投資に参加したことによる。

今後について、何が期待できるであろうか。先般、私たち(GVC Gaesco Gestion)はオーストラリアのパースにある世界旅行ツーリズム協議会(WTTC)を訪問し、あらゆる関連企業の代表者、さらにはさまざまな目的地の代表者と会談した。たとえば、カリブ海のバミューダ、パハマ、ジャマイカの代表者と広範囲にわたる話し合いをした。これらの代表者は、カリブ海をめぐる観光が 2019 年の水準を平均で 70%ほど上回ってきたことに同意していた。驚くべきことに、現在この地域をほぼ独占しているのはカーニバルで、乗客の 80% 以上がこの会社のクルーズ船を利用している。回復にはもはや疑問の余地がないといえる。ベンチマークとなるのはもはや 2019 年ではなく、2023 年、そしてもうすぐ 2024 年が新たなベンチマークを形成し、この成長トレンドは少なくとも 2026 年まで続くであろう。その頃には、世界の他の地域も 2019 年と同じレベルの観光サービスを取り戻すことが予想される。

なお、アジアとのつながりが完全に回復していない目的地がまだいくつかあり、特に中国からの観光客は 2019 年のレベルを 20% 下回っている模様である。中国だけで世界の旅行・観光支出の約 15% を占めており、この市場が 2019 年のレベルに戻ると(2026 年までに回復すると GVC Gaesco Gestion では考えている)、観光業界の売上高は大幅に増加し、EBITDA と純利益は過去最高レベルに達することが想定される。コロナ禍の時期にカーニバルは破産した会社だと主張していた悲観論者は、今やどこにもいないことは確かである。

当資料は、世界ツーリズム株式ファンドのアドバイザーである GVC Gaesco Gestion が提供したレポートに基づきキャピタル アセットマネジメントが翻訳作成したものです。都合により、省略等した部分があります。原資料にご興味がありの際は、当社マーケティング本部 (marketing@capital-am.co.jp) までお問合せください。

以上

免責事項

当資料は、情報提供を目的として、キャピタルアセットマネジメント株式会社 (CAM) が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。